

新 卵肉兼用種による新しい越前地鶏作出のための実証試験 (平成26~27年度)

●現状

- 1 再び、地鶏に対するニーズが高まってきている。
- 2 県内の食肉処理業者の一部にも、地鶏の復興を望む要望がある。
しかし、価格が安く歯ごたえある地鶏を希望している。(平成25年10月聞き取り)
- 3 福井県には、50年以上をかけて改良された産卵率の高い卵肉兼用種が存在
(ウエミチレッド3号)

●旧越前地鶏の問題点

- 1 肉質は、旨みはあったが、肥育期間が短い
ため歯ごたえのある鶏肉を好む県内消費者の嗜好に合わない。
- 2 生産・流通経費の増大により卸価格が高くなり、農家の収益性も悪かった。
 - ・生産費:2,000円/羽(110日)
 - ・販売価格:2,200円/羽
 - ・収益:200円/羽

●課題

- 1 収益性の高い地鶏の開発
卵肉兼用種を用いることで、卵販売による収益性改善
- 2 歯ごたえのあるおいしい地鶏の開発
肥育期間を延長することにより、歯ごたえのあるおいしい鶏肉の生産
- 3 生産費の低減技術の開発
飼料米給与技術による飼料費低減の検討

●試験内容

- 1 地鶏交配試験
 - ・ウエミチレッド3号×岡崎おうはん交配鶏の孵化率・育成率の検討
- 2 卵肉兼用種3種による長期肥育試験
 - ①ウエミチレッド3号×岡崎おうはん
 - ②ウエミチレッド3号
 - ③岡崎おうはん
 1. 飼料米給与による生産費低減の検討
 2. 産卵率の比較検討
 3. 肉質の比較検討
(300、400、500日飼育)
- 3 長期間飼養による収益性の検討
 - ・最適飼養管理方法の確立

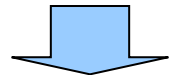


●調査項目

- 1 肉質調査
 - 肉質検査(一般分析、脂肪酸組成)
 - 食味検査
- 2 肥育方法の検討
 - 飼料給与量、肥育期間別体重
- 3 卵質調査
 - 卵質検査(一般分析、脂肪酸組成)

●研究目標

- 県民の嗜好に合った地鶏肉の開発
 - ・剪断力価(肉の歯ごたえ)
1.0 kg ⇒ 1.2 kg
(参考:ブロイラー0.3kg、越前地鶏1.0kg)
 - ・加熱損失(肉のジューシーさ)
18% ⇒ 15%
(参考:ブロイラー18%、越前地鶏18%)
- 収益性の向上
200円/羽 ⇒ 2,000円/羽
- 飼料米による生産費の低減
10%



●期待される効果

- 1 平飼い養鶏農家での地鶏生産拡大
- 2 平飼い養鶏農家の収入増加
- 3 新規養鶏農家の誕生
- 4 新地鶏ブランドの確立

